

幕末に
世界一周
8 やって来た



アメリカのお米は日本米と違ってもちもちふっくらではないのと炊き方が違うのでな...という事で今回は食べ物の話じゃ!

構成 川合登志和
漫画 秋峯

うむ...やはり日本人が日本米で炊いたものは美味しいな
「お米は味噌汁と香りがあがれば...」

おおそうか!
そこに置いてくれ



副使
村垣淡路守

ワシントンにて
大統領謁見の後...
殿様
お粥ができあがり
ました



菌痛は大丈夫でございますか?
冷めないうちにおあがりください
お茶も煮てきました

さすがに今日は
アメリカの料理は
食べられそうもないな



ヤツパン!
チャブ!
チャブ!

Japan!Chap!Chap!
日本人!君たち!という意味

食事の時間になると
ポニーが触れ歩いて
食事であることを伝えて
回った



当時のアメリカは
アメリカ独自の料理というものがなく
ヨーロッパの国々やアメリカ東部などの
料理の寄せ集めだったらしい



ワシントンに着いた初日は
三十種類の料理が出たんじやが
実は日本人の食事の好み
わからなかったから試しに
様々な食材を使ったそうじや



食事は三使・役々の者・従者と
別れて取るようになっておった
アメリカ人と同席しないように
配慮してくれていたようじやな
食堂は六つもあってな
百二十坪ほどの部屋に長さ三間
(五〜六メートル)の大きな食卓
そこに椅子が十脚並べてあつた



ちなみにこれは6月1日の
ウイラードホテルのメニュー

わしが
ワインリストと
一緒に持ち帰って
きたんじやよ

素毛の持ち帰ったものは他にも沢山あるが
このメニュー表は百年以上経った現代
博物館の企画展などに展示される



料理は主に鶏のスープ・牛乳・バター・粉
チーズ・ホワイトソースを使った料理
ハムなどの燻製加工肉・牛のもも肉・鶏肉
鯛や鱈やシヤケなどの魚・子豚の丸煮
卵は生茹ででとろとろしとった

ソースを使ったものも多く
魚などはオープン料理…
七輪で焼くだけで美味しいのにおう
日本人の口に合うものと言えば
みかんとカブの酢漬けくらいだったわ

ズラッ



日本人への配慮で米を出して
くれることもあったんじやが
これが芯があったり
粥のようであったり…

見に行くと杓子を突っ込んで
かき回して炊いておったうえ
炊けてもおひつに入れないん
じやよ



数ある料理の中で
皆が美味しいと
思ったのがこれ！

バナラ
アイスクリーム！

わしらが日本人で初めて
アイスクリームを食べた事に
なるんじやな！

ド



あと何にも牛乳を入れる
わしらが鯨節を使うような頻度で
使うんじやが日本人は臭くて…

…って
飯に牛乳や
砂糖を入れては
だめじや！



…ということ
わしが米の炊き方を
教えてやったわ！

米はといるから
炊くんじや！

はじめちよろちよろ
中パッパ！
赤子泣いても蓋取るな！
じやぞ！

ムズカシイヨ！

賄い方の血が騒いだらしい



あと着物の袖が邪魔でな
着物は袂に食べ物が入ってしまった
西洋の食事では不便極まりないことが
わかった

船上でも着流しでおると
裾がふわふわするし
袖はあちこちに引っかかるし
外国で過ごすには筒袖股引の
服装が合っていると思った



席には一人につき皿が三枚と
庖丁(ナイフ)・熊手(フォーク)
コップ・口ふき(ナプキン)があつて
皿の取り方や手順など
決まった礼があるんじやが

わしは長崎に行つておつた時に
礼を身につけておつたが
日本人のほとんどはそれを知らぬから
皆我流で食べておつてな



日本人は箸で食べるのは上手なんじやが
庖丁と熊手では上手く食べられず
よごすわこぼすわで恥ずかしかったわあ

アメリカの給仕にも
「ヤッパンなんことやら」と
失笑をかっておつた



食事マナーにも一言!
特に下級武士の行儀の悪さといつたら...
料理の見た目がいいものだからあれもこれもと
受け取ったはいが牛乳臭いからと残しては
テーブルの下に隠しておつた

卵やみかんなど
一人三個ずつ
盛られているのを
袂に五つも七つも
入れておつてな
砂糖も鼻紙に包んで
無遠慮に袂へ入れておつたわ



周りの日本人たちは
笑いをこらえるのに
苦労したそうじや

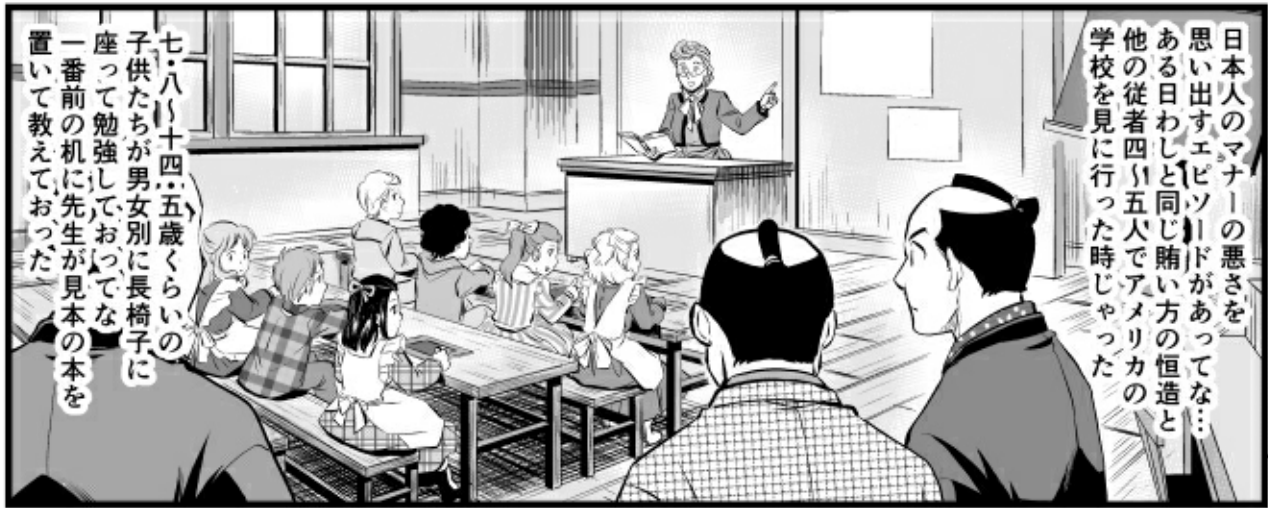
副使の村垣様も
失敗しないよう
向かいの大統領の姪の
レイン嬢のマネをして
事なきを得たそうじや



監察
小栗豊後守



これは後に笑い話になったんじやが
実は上役の方も大統領の晩餐で
やってしもうたことがあつてな
実は勘定組頭の森田様が
食事の後にだされたフィンガーポウルを...



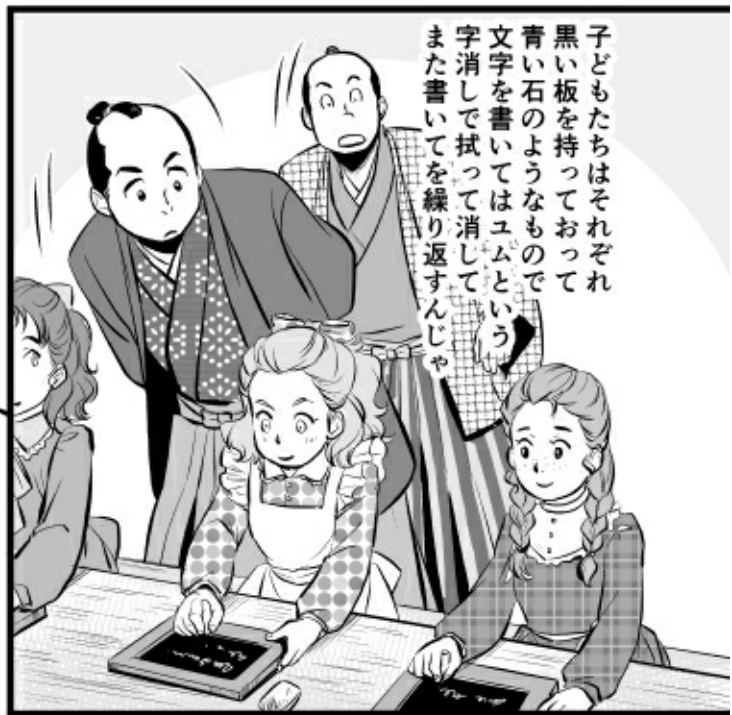
日本人のマナーの悪さを
思い出すエピソードがあつてな
ある日わしと同じ賄い方の恒造と
他の従者四五人でアメリカの
学校を見に行った時じゃった

七・八・十四・五歳くらいの
子供たちが男女別に長椅子に
座って勉強しておつてな
一番前の机に先生が見本の本を
置いて教えておつた



異人がゾロゾロ入っていったのに
子供たちは「日本人だ」と騒ぐと
思つておつたら
ちらりと見ただけでまた先生の方を
向いて勉強をつづけておる

日本の寺子屋へ異人が来たら
筆を持ったまま騒ぐのが
目に浮かぶのう
先生の教え方が違うのかのお



子どもたちはそれぞれ
黒い板を持つておつて
青い石のようなもので
文字を書いてはユムという
字消しで拭いて消して
また書いてを繰り返すんじや



いらっしゃい！
写真かい？
スモールとラージ
どっちにします？

値段が安い
方で！



ここは写真館だ
皆で写真を撮つては
どうだい？

それは
いいな！



六月一日の献立表を持ち帰つたと言つたが
持ち帰つたものは他にもあつてな



そうじゃな
それもいいが
わしは…

加藤はどんな姿で
写してもらうんだ？
やっぱり刀を差して
撮るのか？



当時の写真はダゲレオタイプといって
感光材を塗ったガラス板に像を露光して
撮るんじゃが左右反対に写るので
皆着物や刀を逆にしないといけない

たばこを一服する間くらいの時間
じっとしていないといけないので
首に器具をつけて固定するんじゃよ



それは
美濃・飛騨
ひいては岐阜県人が
はじめて写真に
写った瞬間だった

筆を携え旅装束のその姿は
一生を漂泊の俳人として生きる
矜持であったとも考えられる

わしは…
賄い方でも
侍でもない…

俳人じゃからの



Hi!!

下統嬢?!

ホテルではその夜影絵の上映会が
催された
使節団が次の目的地に向けて
出発するのは五日後の事である



もうすぐワシントンとも
お別れじゃな…

二日後の四月十六日
ワシントンは市内をあげての
大酒宴の日にあたり外出は控えられた

第9話へ
つづく

次回予告

実は素毛の「亜行航海日記」はワシントンで記述が終わっておりこの後のことは「亜行周回略日記」として仕切りなおしている

実は紙が無くなりかけてたんじゃ

ある意味ワシントンまでが素毛にとつての「アメリカの旅」だったのかもしれない



ワシントンを出発し到着したフィラデルフィアで素毛は他の人たちが目にする事ができなかったあるものを目撃することになる

あれは何だ?!

鳥だ!? 飛行機だ?! いや……!!



Intercontinental The Willard

わしが持ち帰ったワイラードホテルの献立表はジャパントイムズ百周年記念号に掲載されたり江戸東京博物館やボストン美術館にも展示されたんじゃよ! ホテルは今もワシントンにあるのでわしのように世界一周の旅の際にはぜひ泊まってみて!



当時は国産クラスの客が泊まるホテルもあつた。